

# 雅ねえの、みんなで取り組む

# 獣害対策講座 Vol.12

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

あまりにも暖かい冬でした。あたしの住んでる島根県でも雪かきすることもなく、ぼーっとしちゃった。今年はフキノトウ採るの忘れてるうちにシーズンすぎちゃったし！今年度、最後の原稿は、みんなにというより、自分自身に気合入れなくちゃ！

## おさらいと予習

### 前回

集落の目標は獣害対策じゃなく、みんないきいき元気な集落づくり。決して便利じゃないけど、高齢者が多いけど、みんな気持ち若くて、些細な疑問は教えあう、大変な仕事は助け合う、毎日が楽しくて元気に過ごせる、そんな笑顔のたえない集落を目指そう。獣害対策はそんな集落づくりのきっかけになるよって話でした。

### 今回

今回は、いつも県の獣害対策講習会の現地実習に協力していたら、曲集落で1月23日に行った実習の紹介と曲集落の不思議を、紹介していきます。

一人でも多くの方が曲集落に立ち寄って見学してほしい。小っちゃなモデル圃場だけど、大規模圃場の獣害対策に生かせるヒントも多いし、ひよっとしたら曲不思議を体験できるかも。

## 作業1 ウメの枝切り

### 切った理由

野生動物って直射日光が苦手。こんもり茂った背の高い樹木って、あるだけで「あの木の下涼しそう」って野生動物寄ってくる。タカなど猛禽類が恐ろしい小鳥たちも小枝の多い樹木の中は安全な居場所。鳥獣の糞からはアケビ、キイチゴ、グミみたいな餌植も生えやすい。

株元は土もひんやり、しっぽりでイノシシにとっては格好の土堀り遊び場。

高い木の日陰が伸びれば隣接する畑の日当たりも悪くなる。

それに、病害虫の防除や剪定作業もやりにくい。

背の高い果樹ってホントにろくなことはないのだ。

### 作業の実際

今回のターゲットはおなじ

み山下さんちのウメ。作業の内容は切る前、切ったあとの写真のとおり。じゃあ、その作業手順を紹介。もし手元にあるなら『現代農業』（農文協）って雑誌、去年の12月号も参考にしてみよう。

### 手順①かえり枝を切る

木の株本の中心から外に向かって伸びている枝に対して、一旦外に向かって伸びた枝から、もう一度株の中心方向に向かって伸びている枝をかえり枝（内向枝）っていう。



かえり枝が伸びると日光の奪い合いあい激化し、巨木化が始まるし、切った枝を取り除くことができない。ウメ

は特に切った枝を引き抜くときに枝どうしがこすれてせっかくの花芽が落ちてしまう。だから、目立つかえり枝を真っ先に切っちゃおう。

### 手順②ノコギリを横に使う

次に、日光の取り合いをしている枝のお抜き。

いくら優秀なお奉行でもあまりにも訴えが多ければ、細かな事件を一つ一つ調べあげて裁くのは大変。

たくさんの枝が日光をめぐって争っている中で、あなたはノコギリを手に手際よく悪枝を成敗する木なおし奉行。同じ方向に出ている枝、どっちを切るのかさつと枝にノコギリをあててみる。

